

2024 年 9 月 20 日

開志専門職大学 数理・データサイエンスセンター

【評価項目】教育プログラムの履修・修了状況

【評価項目に対する点検・評価・今後の課題】

履修者数：47 名（参考：2022 年度 73 名）

情報学部に入學した全員の 47 名が新規の履修者となった（2022 年度 73 名）。履修者は、情報学部全員が対象となるために、入学者数によって自動的に決まっている。

修了者数：18 名（参考：2022 年度 30 名）、年度修了率：30%（参考：2022 年度 40%）

修了者の 18 名には PDF ファイルによる修了証を発行した。2022 年度から修了者・修了率ともに減少した。本プログラムの主な修了者は、本学の AI・データサイエンティストコースを受講している学生となるが、2022 年度学生が、複数コースの受講が多かった（開学 1 年目で過去の実績がなかった）のに比べ、2023 年度は、複数コースで学生負担が大きいことがわかったため、AI・データサイエンティストコースの受講者数が減りこの修了者となった。コースの選択肢は 3 つであるために、約 1/3 であるのは妥当である。現状のプログラムは、習得する科目数が多く負担も大きいので、複数コース掛け持ちの学生を増やせるようなカリキュラムの見直しが今後の課題である。

【評価項目】プログラムの内容と理解度

【評価項目に対する点検・評価・今後の課題】

今年度は、開学 5 年目の 2024 年入学生に向けて導入する新カリキュラムにおける、数理・データサイエンス系科目の改善案の作成に注力した。特に、数学科目に関する学生の理解度や負担感を課題と認識し、4 科目（線形代数・微分積分学・確率論・統計学）から 3 科目（情報数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）に構成し直した。他科目との重複もこのタイミングで整理している（例：確率論と情報理論でエントロピーが重複）。情報数学Ⅰを高校数学との接続科目と位置付けて、学生にとっての高校・大学のギャップを軽減することとした。また、AI 系の学びを早期化するために、2 年次に AI の総合的な演習科目を導入することになった。学生の理解度については、大学全体の授業評価アンケートの結果では、特に問題は出ていない。今後の課題としては、個々の構成科目における理解度のモニタリングと改善にさらに取り組んでいく必要

がある。

【評価項目】学外・産業界からの視点による教育プログラム内容・修了者の進路・活躍状況

【評価項目に対する点検・評価・今後の課題】

学外・産業界からの視点については、臨地実務実習、学習支援などで協力関係にある、新潟人工知能研究所との意見交換を実施した。教育プログラムについて共有し、今後の協力を確認した。また、データサイエンスに関するコンサルなどを事業とする株式会社グラフとの情報交換の打合せを実施し、今後の協力を確認した（臨地実務実習でも協力）。今年度は、まず、センターの活動やプログラム自体について理解を得た段階にあり、今後、プログラムの運用状況をご説明して改善に向けたご意見を伺っていく必要がある。修了者の進路については、プログラムの最初の修了者（2022年度修了）が最初の卒業生として、卒業したために最初の就職実績が明らかになった。データサイエンス系の企業への直接の就職はなかったが、多くの学生が臨地実務実習の実績をアピールしてIT企業への就職につなげている。3年生での臨地実務実習の約1/3がAIやデータサイエンスに関するテーマとなっており、多くの本プログラム修了者がAI・データサイエンスに関する学びを就職につなげていると考えられる。また、企業担当者の声として、臨地実務実習でのデータサイエンスでの取り組み実績が、が採用や研究開発への配属につながっていると就職担当者に伝えられている事例もでてきている。今後の課題としては、より定量的な評価を実施・継続し、改善につなげていくことである。

以上